

口腔病学会雑誌投稿規程 (第84巻第1号より適用)

2016年3月2日改定

I. 本誌に発表する論文の筆頭著者は本会会員であり、その内容が本誌の目的に適し、他の雑誌に発表しないものに限る。ただし本会編集委員会が認めたものはこの限りでない。

II. 本誌掲載の著作物の著作権はすべて本学会に帰属するものとする。

III. 本誌への投稿原稿は次の種類に分けて掲載する。総説 (Review Article), 原著 (Original Article), 症例報告 (Clinical Case Report), 技術紹介 (Technical Report), 最近の歯学, 例会抄録, 学会講演抄録, その他。

(A) 「総説」(Review Article) は編集委員会の依頼によるもので、原則として8,000字以内、図・表7点以内とする。掲載料は無料、別刷30部を贈呈する。

(B) 「原著」(Original Article), 「症例報告」(Clinical Case Report), 「技術紹介」(Technical Report) ならびに「その他」の掲載料、別刷の費用は有料 (実費) とする。

(C) 「最近の歯学」の欄は広く一般会員のために、最近の新しい臨床技法や薬品材料を紹介し、また各種の歯学関係の科学ニュースを提供するためのもので、通常学内各講座等に編集委員会より依頼する。各篇は表題を別にして、図・表を含めて1,600字以内 (図・表も含めて刷り上がり1ページ) とし、掲載費用は全額無料、別刷費用は有料 (実費) とする。内容は文章のみによらず、なるべく写真・図・表を入れる。

(D) 「例会抄録」は、口腔病学会例会の講演後抄録である。抄録は800字以内とし、講演者に例会担当理事より依頼する。

(E) 学会講演抄録は口腔病学会学術大会の講演後抄録である。講演者は必ず800字以内の抄録および内容を記録した電子記録媒体 (CD-R (W), DVD±R など) を編集担当理事まで提出すること。なお、原則として提出された抄録、電子記録媒体は返却しない。

(F) 「その他」は、編集委員会依頼の「総説」、「原著」、「症例報告」、「技術紹介」のカテゴリーに分類されない内容とする。

IV. 原稿の書き方

原稿は、和文または英文で記述されたものとする。構成は、和文論文の場合、和文表紙→英文表紙→英文抄録→和文抄録→和文本文とする。英文論文の場合、英文表紙→英文抄録→英文本文→和文表紙→和文抄録とする。原著以外の和文論文 (症例報告等) の英文表紙・英文抄録の添付は任意とする。添付する場合は、原著の構成に準ずること。

(A) 原稿は、A4縦長用紙を用い、横書きとする。和文の場合は1行32字、25行を1ページに収め、常用漢字を用い、口語体、新かなづかいで書くこと。英文の場合は10~12ポイント、ダブルスペースで印字すること。原稿用紙のフッターにページ番号を記載すること。

(B) 和文表紙には、論文の種類、表題、著者名、所属、必要に応じて指導者名や主任者名を和文で記載する。英文表紙

には、同様の内容を英文で記載する。所属は、和文・英文ともに研究科・専攻・講座・分野を記載すること。

a) 英文表題は、冠詞・前置詞・接続詞以外の単語の頭文字は大文字とすること。

b) 著者名の姓について、新旧の姓を表記する場合にはどちらかの姓をカッコでくくること。欧文の表記はハイフンでつなぐこと。

例 佐藤 (田中) 花子

Tanaka-Sato Hanako

(C) 原著論文の場合には必ず抄録 (和文600字以内、英文250語以内) を各表紙の次のページに記載すること。抄録 (Abstract) は研究目的 (Introduction), 材料と方法 (Materials and Methods), 結果 (Results), 結論 (Conclusion) の要旨を簡潔に書くこと。和文抄録と英文抄録の内容は一致させること。

(D) 原著論文 (Original Article) の本文は、I. 緒言 (Introduction), II. 材料と方法 (Materials and Methods), III. 結果 (Results), IV. 考察 (Discussion), V. 結論 (Conclusion) の順に記載すること。

(E) 臨床および症例 (Clinical Case Report) の本文は、I. 緒言 (Introduction), II. 症例概要 (Case summary), III. 考察 (Discussion), IV. 結論 (Conclusion) の順に記載すること。

(F) 英文論文は事前にネイティブスピーカー等による英文校正を受け、投稿時にその証明書を提出すること。査読後に論文を修正し、再提出する際も同様とする。

(G) 数字はアラビア数字、欧文はすべて原綴で半角とする。

(H) 図 (写真)・表はすべて本文末にまとめて添付し、図1 (Figure 1) や表1 (Table 1) のように番号を記載する。

a) 図 (写真) は横が8 cmまたは17 cm、縦が20 cm以内に印刷されるので、文字を入れる場合は、縮小率を考慮すること。

b) カラー印刷を希望する場合には、投稿の際に申し出ること。

(I) 単位は原則としてSI単位系に従う。

(J) 文献 (References) は引用箇所引用順に番号をつけ (例: 田中ら¹⁻³⁾, 荒谷²³⁾), 本文の末尾に番号順にならべる。

(K) 文献の記載法

a) 雑誌論文 著者名 (全員), 論文表題, 雑誌名 発行年 (西暦); 掲載巻: 通巻ページの始-終.

b) 単行本 著者名 (全員), 単行本名, 巻, 版数, 出版社所在都市名: 出版社名; 発行年 (西暦), 引用ページの初-終.

c) 分担執筆による単行本 分担執筆者名, 分担表題名, 編集 (監修) 者名, 単行本名, 巻, 版数, 出版社所在都市名: 出版社名; 発行年 (西暦), 引用ページの初-終.

例 1) 有久夏夫, 各種薬剤による乳酸菌の形態変化について, 口病誌 1955; 22: 1-10.

- 2) 高橋新次郎. 歯科矯正学. 最新歯科医学全書13巻, 1版. 京都:永末書店;1948, 100-103.
- 3) Shafer WG, Muhler JC. Effect of gonadectomy and sex hormones on the structure of the rat salivary glands. J Dent Res 1953 ; 32 : 262-268.
- 4) Thoma K. Oral Pathology. St. Louis: Mosby;1950. 123-128.

d) 論文掲載雑誌名の省略法は、原則として当該雑誌で規定されているものとする。

V. 倫理規程

(A) ヒトを対象とした研究発表を行う場合にはヘルシンキ宣言を遵守し、被験者および患者からインフォームドコンセントを得ていること、また、所属機関の倫理委員会の承認を得ていることなどの明記(承認番号)を必要とする。

(B) 動物を対象とする場合には「所属施設の動物実験委員会などの承認を得ていること」などの明記を必要とする。

(C) 患者を対象とした場合は、臨床所見や写真などの資料および検体などに由来するデータの公表に際しては患者から使用の承諾を得ること。また、その際は資料などから個人が特定されることのないよう個人情報の保護を徹底すること。

VI. 利益相反 (COI)

(A) 利益相反の有無について本文の末尾に記載する。利益

相反がない場合は「著者全員利益相反なし。」などと記載し、利益相反がある場合は該当事項を記載する。

VII. その他

(A) 初稿投稿時には、原稿ファイル(表紙、抄録、本文、謝辞、文献、図説明文、図、表の順にまとめたWordファイル)を電子メールに添付して編集担当理事または幹事に提出する。なお、画像ファイルはTIFF、JPEGで提出してもかまわない。添付するファイルのサイズは30 MB以下とし、トラフィックの負担にならないサイズに適宜分割あるいは圧縮すること(ファイルのサイズが大きい場合は事前に編集担当理事または幹事に連絡のこと)。投稿票、著作権帰属承諾書は編集担当理事または幹事に紙媒体にて提出すること。

(B) 論文が受理(Accepted)された時は、最終原稿ファイル(Wordファイル)および画像ファイル(TIFFもしくはJPEG)を電子メールに添付して提出すること。

(C) 投稿論文の採否については、2名以上の査読(Peer review)を経て、編集委員会で決定する。

(D) 著者校正は原則として、初校において行う。校正は間違いを訂正する程度とし、原稿にない加筆や訂正をしないこと。

口腔病学会雑誌発行日

号	発行日
1	3月31日
2	7月31日
3	11月30日

投稿は随時受付